

## 第2 実践事例

### 事例1 児童が主体的に学習に取り組むことをめざした事例

- 学年 知的障害特別支援学校（6年）
- 指導内容及び指導の形態 教科別の指導「国語・算数」、自立活動
- 事例のポイント
  - ①見通しをもって、自分から取り組むために環境設定を工夫する。
  - ②やるべきこと、活動の終わりが分かりやすいよう教材教具を工夫する。
  - ③達成感を感じられるよう、自立課題を設定する。

#### 1 題材名 教科別の指導「国語・算数」、自立活動 「みんなでおべんきょう」「ひとりでおべんきょう」

特別支援学校の事例です。教科別の指導に、自立活動の目標も加えて指導している事例です。指導案は特支編成要領 P350 の様式に沿って記述しています。

#### 2 題材設定の理由

本グループは、6年生女子2名（A、B）で構成されている。2名とも知的障害を主障害として、自閉症スペクトラムを併せ有している。2人とも学習に取り組む姿勢ができており、言葉の理解が広がってきているが、口頭のみでの指示では誤って理解してしまうこともある。視覚的にわかりやすくすることで、正確に理解したり、見通しをもったりすることができる。文字が読める程度、書ける程度に違いはあるが、2人とも読み書きの力が伸びてきている。数量や数字についても、10までの数を数えられるようになってきたり、何番目が分かるようになってきたりと、理解が広がってきている。大人に対しては要求等を1～2語文で伝えることができるが、やりとりでは問われていることが理解できなかつたり、気持ちなどを上手く伝えられなかつたりすることがある。Aは友達や大人との言葉遊びが好きで、やりとりを楽しんでいるが、機能的なコミュニケーションの言葉は少ない。Bは、伝えたいことがうまく伝えられずにイライラすることも多く、特に友達に伝えることが難しい。コミュニケーションや友達とのかかわり方についてはそれぞれ課題がある。

本グループの学習では、はじめに2人での学習、その次に個別での学習に取り組んでいる。年間を通して同じ流れで取り組むことで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。また、視覚的にわかりやすく、それぞれが活用できる形でのスケジュールを使うことで、学習活動に自信をもって自分から取り組めることもねらっている。

前半の2人での学習では、それぞれの自立活動の指導内容として取り上げている、「人間関係の形成」や「コミュニケーション」から活動を設定し、設定された活動の中で友達とのかかわりがもてたり、友達を意識したやりとりができたりするようにしていきたい。〈3 人間関係の形成、6 コミュニケーション〉

後半の学習では、それぞれの児童の実態に基づき課題設定をした個別での学習に取り組む。学習に集中できる落ち着いた環境の中で、自分の力で活動を判断・理解し、自分から学習活動に取り組めるようにしていきたい。スケジュールやワークシステム（自分で学習を進めていくための仕組み）等を工夫し、自分で学習活動を進めていけるようにする。それにより、自分の力で学習活動をやり遂げた、という経験を重ねていけるようにしたい。教員とのやりとり学習では、「国語・算数」、自立活動で伸ばしたい力、課題となる部分について、それぞれの課題にせまる学習に取り組んでいく。

おべんきょうタイム（※）の時間は、児童が学習しやすい環境を一番整えやすい時間になっている。それぞれの児童が、集中して学習に取り組める、学習しやすい環境を整えていくことで、もっている力を発揮し、さらに伸ばしていけるようにしたい。

※おべんきょうタイム：教科別の指導「国語・算数」、自立活動の時間を児童向けに「おべんきょうタイム」という名称で呼んでいる。3～6年生で課題別のグループを編成し、学習活動に取り組んでいる。

### 3 題材の目標

「国語」

- (1) 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けることができる。 〈知識及び技能〉
- (2) 言葉や文字に対する理解を広げ、身近な人に伝えることができる。  
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 言葉でのやりとりを聞いたり、自分からやりとりに答えようとしていたりしている。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

「算数」

- (1) 10 までの数の概念や表し方が分かるとともに、数の感覚をもつことができ、形に着目して、集めたり分類したりすることができる。 〈知識及び技能〉
- (2) ものの数に着目し、自分なりの方法で数え方を考えたり、ものの形に関心をもち、形の性質に気づいたりすることができる。  
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 数や形に関心をもち、興味をもって学ぼうとしている。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 指導計画

「みんなでおべんきょう」指導計画

特支編成要領 P25～

指導計画作成上の留意事項(5)(7)

過程	学習内容	ねらい	時間
I	「洗濯ばさみ色分けゲーム（2人で2色）」 ・2色のうち1色を、自分の担当の色とする。 ・「?ボックス」から取り出した洗濯ばさみが担当の色でなかったら、その色の担当の人に渡す。 ・受け取った洗濯ばさみ、自分で引いた自分の色の洗濯ばさみを台紙にとめていく。	・活動のやり方、ルールを理解することができる。	5
II	「洗濯ばさみ色分けゲーム（2人で4色）」 ・2色のうち2色を、自分の担当の色とする。 ・以下、同じルールで取り組む。	・色が増えても、ルールを理解して取り組むことができる。	10
III	「洗濯ばさみ色分けゲーム（4人で4色）」 ・教員も含めた4人で取り組む。 ・4色のうち1色を、自分の担当の色とする。 ・以下、同じルールで取り組む。	・教員を含めた中で、「誰に」洗濯ばさみを渡すのか、ということ意識できる。 ・相手と適切なやりとりをすることができる。	15 (本時 13/15)
IV	「絵カード仲間分けゲーム」 ・教員も含めた4人で取り組む。 ・果物、野菜、動物などの中から1つを自分の担当として決める。 ・「?ボックス」から自分の担当以外のカードが出たら、その担当の人にカードを手渡す。 ・もらったカード、自分で引いた自分の担当のカードを台紙に貼っていく。	・名詞の上位概念を理解し、仲間分けをすることができる。 ・相手を意識してカードを手渡すことができる。	8

※はじめの10分間は、2人で「みんなでおべんきょう」（グループでの学習）に取り組む。

※後半の30分間は「ひとりでおべんきょう」（個別学習）に取り組む。個別の指導計画に基づき学習に取り組み、学習の習得状況を見ながら随時、課題内容を変更していく。

## 5 本時の学習 (本時 28/38)

### (1) 共通目標

- ① 言葉や文字で、相手に分かるように伝えることができる (国語)。
 

〈思考力、判断力、表現力等〉
- ② 具体物を操作して数や数量の処理ができたり、形に気付いて組み合わせたりすることができる (算数)。
 

〈思考力、判断力、表現力等〉

### (2) 児童の実態



NO	学年	名前	本題材に関する実態
1	6	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声のみの指示では、理解するのが難しいことが多く、一人で行動するのに不安を感じる人が多い。見て、理解することが得意で、写真などでスケジュールを理解し、自ら活動することができる。</li> <li>・ひらがなを概ね読める。身近なことばはまとまりで読み、そうでないものは拾い読みになる。拗音や促音、カタカナは、身近なものであれば、読める。自分の名前はひらがなで書くことができる。</li> <li>・30以上の数字を正しく読めることも多くある。30までの数とドットのマッチングができる。</li> <li>・決まったやりとりを求める言葉は多いが、本当に困った時や、何をするかわからなくて不安な時には、なかなか言葉が出ない。</li> <li>・自分で苦手だと思ふ活動などの際には、教員を呼んで一緒に活動しようしたり、一つ一つ確認したりするが、少なくなってきた。</li> <li>・見通しがもてると、自分から活動に取り組むことができる。予定の変更は、本人に分かりやすく伝えることで受け入れられることが多い。</li> </ul>
2	6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた活動、友達の動きが予測できる活動の中では、友達と一緒に活動することができる。</li> <li>・文字はひらがなやカタカナを意識しつつあり、名前を知っているものの絵と単語のマッチングができる。</li> <li>・説明をよく聞き、理解しようとする意欲が見られる。動詞の理解が少しできるようになってきた。</li> <li>・確実ではないが、100までの数唱ができつつある。10までの数の理解ができつつある。</li> <li>・苦手な声の児童がいて、全校や学部の大人数での活動場面では教員のかげに隠れて刺激を減らすようにしている。クラスの少人数の集団での活動には、安心して参加できることが多い。</li> <li>・見通しがもてる活動に、自分から取り組むことができる。やるべきことは最後までやろうという気持ちがある。</li> </ul>

### (3) 個別の指導内容及び目標

NO	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	6	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日にあった学習を振り返る。</li> <li>・「どこで」「だれが」「なにをした」など、質問に答えながら書き出していく。</li> <li>・気持ちカードを使いながら、どんな気持ちだったかを言葉にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日にあった学習に対する感想を、自分なりの言葉で表し、日記に書くことができる (国語)。</li> <li style="text-align: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇 (右または左) から何番目」の指示を聞き、指定された場所に目印を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇から何番目」の〇〇が変わっても、正確な場所に目印を入れることができる (算数)。</li> <li style="text-align: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものを渡す時には「どうぞ」、受け取る時には「ありがとう」と伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な言葉を使いながら、相手と洗濯ばさみの受け渡しをすることができる。〈6コミュニケーション (2)言語の受容と表出に関すること。〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声言語で提示される3つのヒントを聞く。ヒントを覚えておきながら、全てが当てはまる絵カードを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉でのヒントを聞き、全てが当てはまる絵カードを取ることができる。〈4環境の把握 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールなどを活用し、自分で取り組む活動を判断することができる。</li> <li>・活動に見通しをもち、自分で活動を進めていくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに従って「ひとりでおべんきょう」の活動に自分で取り組むことができる。〈4環境の把握 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。〉</li> </ul>
2	6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50音順に並んだブロックから文字を探し、絵カードで提示されたものの名前を構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく加えた絵カードのものの名前を文字ブロックでつくることことができる (国語)。 〈思考力、判断力、表現力等〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・数唱と数字、数字と数 (量) を結び付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字と同じ数のビーズを袋に入れることことができる (算数)。 〈思考力、判断力、表現力等〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の人を意識することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の手の平に、洗濯ばさみを置くことことができる。〈3人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて活動に取り組むことことができる。</li> <li>・スケジュールなどを活用し、自分で活動に見通しをもつことことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひとりでおべんきょう」に最後まで落ち着いて取り組むことことができる。〈1心理的な安定 (1)情緒の安定に関すること。〉〈4環境の把握 (5)知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。〉</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでとの違いを受け入れることことができる。</li> <li>・これまでと違う「完了」「終了」を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋に入っているスプーンとフォークを見本写真と同じ組み合わせに修正することことができる。〈2心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること。〉 〈4環境の把握 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。〉</li> </ul>

(4) 展開 (40分授業)

時間	学習内容	<p>○児童の活動 □指導者の主な指示、発問等          ◎予想される児童の反応 ◇指導者の動き          ※支援の手だて *評価の観点          (網掛け) 個人目標に直接関わる活動</p>		資料等
1分	1 始まりの挨拶をする。	<p>□T1は、挨拶の号令をかける。          ○教員とともに、始まりの挨拶をする。</p>		
9分	2 「みんなでおべんきょう」に取り組む。	A	B	<p>色カード          色台紙          ?ボックス          洗濯ばさみ          マーカー          色担当表</p>
<p>◇T1、T2はA、Bと「洗濯ばさみ色分けゲーム」に取り組む。          ○教員とともに「洗濯ばさみ色分けゲーム」に取り組む。</p> <p><b>&lt;やり方&gt;</b>          ①4色の色カードから1枚を選び、自分の色を決める。          ②順番に「?ボックス」から洗濯ばさみ引く。            ③出た色を担当する人に洗濯ばさみを手渡す(自分の色の時は、自分の台紙にとめる)。  <b>&lt;約束&gt;</b>          ・洗濯ばさみを渡す時は、相手の手の平に置く。          ・渡す時は「どうぞ」、受け取る時は「ありがとう」と言う。</p> <p>※誰が何色か分かるように、ホワイトボードに顔写真と色の一覧を提示する。          ※誰が引く順番か分かりやすいように、マーカーを回していく。</p>				
<p>◎無言で洗濯ばさみを手渡す。          ※やりとりの言葉(「どうぞ」「ありがとう」)を提示しておく。          *適切な言葉とともに、洗濯ばさみの受け渡しをすることができる。</p>		<p>◎洗濯ばさみを相手の手ではなく、机に置く。          ※イラストで洗濯ばさみの適切な渡し方(机の上ではなくを、相手の手の平に置く)を提示する。            *相手が手を出すのを待って、洗濯ばさみを置くことができる。</p>		
<p>□T1はA、Bにそれぞれのおべんきょうスペースに移動するように伝える。</p>				

30分

3 「おべんきょう (個別学習)」に取り組む。

◇T1はA、Bそれぞれと「せんせいとおべんきょう」=引き上げ課題、やりとり課題を行う。

◇T2はA、Bそれぞれの「ひとりでおべんきょう」=自立課題を見守る。

○それぞれのおべんきょうスペースに移動し、個別の課題に取り組む。

※学習の見通しがもてるように、スケジュールの提示をする。

※「ひとりでおべんきょう」では、自分で学習を進められるように、カードマッチングのスケジュールと教材棚を使ったワークシステムを活用する。

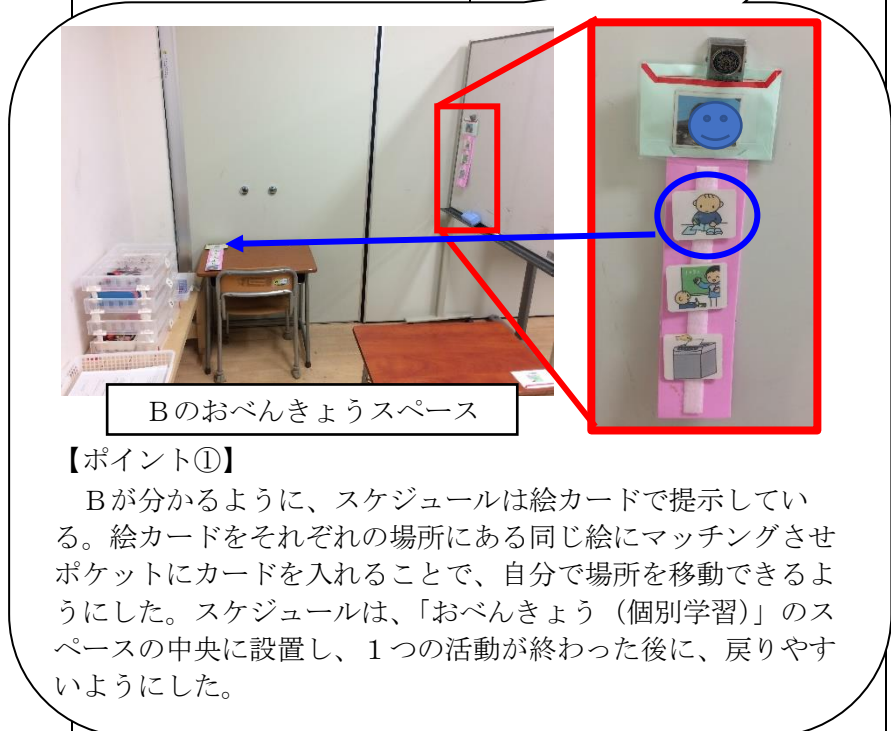
スケジュール  
課題棚  
シュレッダー

〈Aのスケジュール〉

- ①せんせいとおべんきょう
- ②ひとりでおべんきょう

〈Bのスケジュール〉

- ①ひとりでおべんきょう
- ②せんせいとおべんきょう
- ③シュレッダーかけ



Bのおべんきょうスペース

【ポイント①】

Bが分かるように、スケジュールは絵カードで提示している。絵カードをそれぞれの場所にある同じ絵にマッチングさせポケットにカードを入れることで、自分で場所を移動できるようにした。スケジュールは、「おべんきょう (個別学習)」のスペースの中央に設置し、1つの活動が終わった後に、戻りやすいようにした。

○「せんせいとおべんきょう」に取り組む。

- ①3ヒントゲーム
- ②日記
- ③ものの名前を文字で書く
- ④〇〇から何番目

①3ヒントゲーム

◎ヒントを聞いている途中で、集中が途切れてしまう。

※指で「1、2、3」とヒントの数を提示し、Aが意識を向けられるようにする。

○「ひとりでおべんきょう」に取り組む。

- ①ボールペンの組立
- ②カトラリー3点をケースにしまう
- ③カラーチェーンリングをつなげる
- ④文字指示によるパッキング
- ⑤写真指示によるパッキング

※自分でできた達成感を感じられるよう、T2は静かに見守る。

\*ヒント全てが当てはまる絵カードを取ることができる。

②日記

◎「どこで」「だれと」などの質問に対し、何を答えればよいか、わからない。

※場所カードや写真、感情カードなど、ヒントになるものを用意しておく。

\*その日の出来事に対する自分の気持ちを表す言葉を選び、日記に書くことができる(国語)。〈思考・判断・表現〉



#### 事例のポイント①

「ひとりでおべんきょう」では、スケジュールは数字のマッチングを使い、数字カードをマッチングさせて課題の棚を引き出し、課題が終わったら棚に戻す、という形のワークシステムにした。トランジション(活動の切り替えのきっかけ)は本人の写真カードを使い、写真カードをマッチングさせることで、全体のスケジュールに戻れるようにした。



#### 事例のポイント②

引き出した課題の棚は、その棚の中で課題が完結するように設定をする。また、課題の流れを「左から右へ」と統一したり、完成したものを提示したりしておくなど、棚の中を見ただけでやるべきことが分かるようにする。こうしておくことで「教材が全てなくなったら右側へ来たら) 終わり」というように、終わりの見通しをもちやすくなる。

#### 事例のポイント③

自立課題(「ひとりでおべんきょう」)に取り組んでいる間は、指導者は途中で支援をしたりせず、児童が一人で取り組む様子を見守る。そうすることで、児童は一人でやりきった達成感を感じることができる。

自立課題を設定する際は、指導者とのやりとり課題(「せんせいとおべんきょう」)で確実にできるようになったことを課題として設定する。やりとり課題の中で学習を重ねる中で、1つの棚の中で課題を完結できるように教材の配置や設定を修正し、自立課題へと移行させていく。



○「ひとりでおべんきょう」  
に取り組む。

- ①イラスト・文字線結び
- ②文字並べ（名詞）
- ③文字の指示によるカラー  
ビーズの紐通し
- ④指示塗り絵  
（数字、色の置換）

※数字マッチングのスケジ  
ュールと、課題が終わった  
ら棚に戻す形のワークシ  
ステムで、取り組むべき課  
題の順序と内容が分かる  
ようにする。

\*スケジュールに従って「ひ  
とりでおべんきょう」の活  
動に自分で取り組むこと  
ができる。

○「せんせいとおべんきょう」  
に取り組む。

- ①文字ブロックで言葉をつくる
- ②スプーンフォークの間違い修正
- ③指示された数のビーズを  
ケースに入れる
- ④ブロックで形をつくる
- ⑤おはじきの間違い修正



※①：悩んでいるときには(1)  
探している1文字を発音す  
る。(2)文字があるあたりを  
指で示す。(3)絵カードの裏  
の文字を提示する。


\*手だて①②で、新しい絵カ  
ードの文字を完成させるこ  
とができる（国語）。〈思考・  
判断・表現〉



※②：間違っていた時には、見  
本の写真を指差して確認を  
促す。

\*袋から全てを取り出すこと  
なく（全てを入れ直すので  
はなく）、間違いを見つけ修  
正できる。



			 <p>※③：ビーズを入れる動作と数唱がずれてしまう時には、10に区切られた枠（5×2段）を使ってビーズを数えるようにする。</p> <p>*ビーズを入れる動作と数唱が合っていて、数唱を提示された数で止めることができる（算数）。〈思考・判断・表現〉</p> <p>○「シュレッターかけ」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマーが鳴るまで、紙を1枚ずつ取り、シュレッターにかけていく。</li> </ul>	
	4 おわりの挨拶をする。	◇T2はAとおわりの挨拶をする。 ○指導者とおわりの挨拶をする。	◇T1はBとおわりの挨拶をする。 ○指導者とおわりの挨拶をする。	

## 6 評価

### (1) 共通目標に係る評価

- ・個別学習の中で、個々の目標を達成することができる。

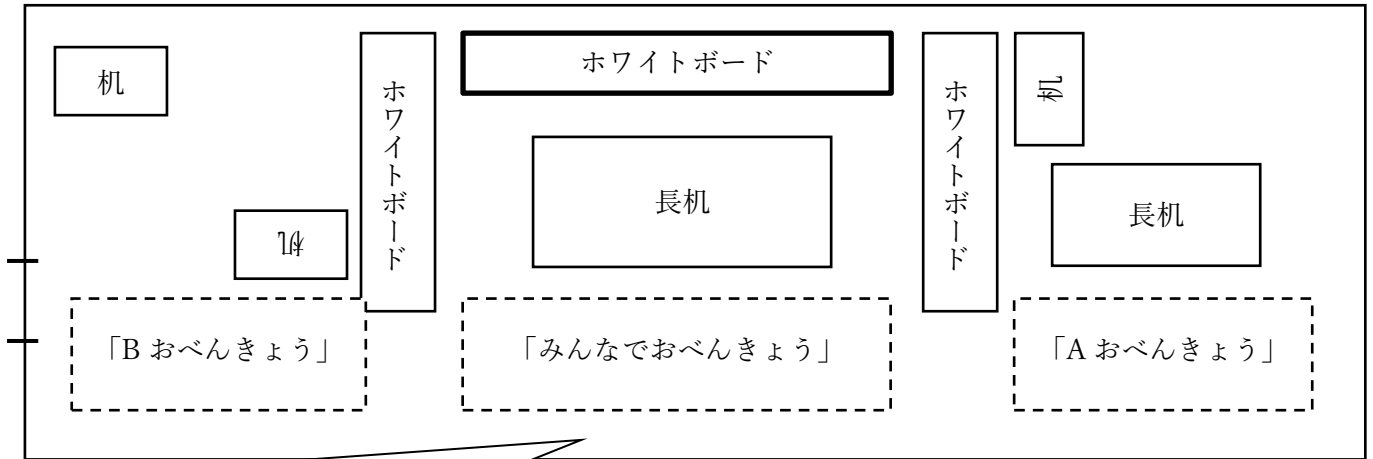
### (2) 個人目標に係る評価

A 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の出来事に対する自分の気持ちを表す言葉を選び、日記に書くことができる（国語）。〈思考・判断・表現〉</li> <li>・「〇〇から何番目」の〇〇が変わっても、正確な場所に目印を入れることができる（算数）。〈思考・判断・表現〉</li> <li>・適切な言葉とともに、洗濯ばさみの受け渡しをすることができる。 〈6コミュニケーション (2)言語の受容と表出に関すること。〉</li> <li>・ヒント全てが当てはまる絵カードを取ることができる。〈4環境の把握 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。〉</li> <li>・「ひとりでおべんきょう」の活動に、最初から最後まで自分で取り組むことができる。 〈4環境の把握 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。〉</li> </ul>
B 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手立て①②で、新しい絵カードの文字を完成させることができる（国語）。〈思考・判断・表現〉</li> <li>・ビーズを入れる動作と数唱が合っていて、数唱を提示された数で止めることができる（算数）。〈思考・判断・表現〉</li> <li>・相手が手を出すのを待って、洗濯ばさみを置くことができる。 〈3人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。〉</li> <li>・「ひとりでおべんきょう」に最後まで落ち着いて取り組むことができる。〈1心理的な安</li> </ul>

	<p>定 (1)情緒の安定に関すること。4 環境の把握 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。)</p> <p>・袋から全てを取り出すことなく (全てを入れ直すのではなく)、間違いを見つけ修正できる。〈2 心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること。4 環境の把握 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。〉</p>
--	---

## 7 備考

- ・教室環境図



### 事例のポイント①

部屋の中をホワイトボードで区切り、「みんなで学習する場所」、AとBがそれぞれ「個別学習する場所」を分け、場所によって何をやるのかという見通しをもちやすいようにした。また、個別学習をする場所の中でも「一人で学習する机」「先生と学習する机」を分けることで、Aは自立課題に取り組む際に指導者に頼らず、一人で取り組む姿勢が身に付けやすかった。Bは自立課題に取り組む際「指導者からの介入がない」と安心して課題に取り組むことができ、やりとり課題に取り組む際は、指導者の働き掛けを受け入れやすくなった。